

新編 知立市史だより

第12号



逢妻川上空から望む知立の市街地

遡ること448年前の天正2年（1574）12月、織田信長は分国内の街道整備を命じます。市域もその対象となり、当時八橋宿を經由していた中世東海道（鎌倉街道）の南側に新たな街道が造られました。のちに近世東海道となる道です。この街道新設は市域とその周辺において村落再編の動きを生み出しました。市域東隣の里村（安城市）では鎌倉街道沿いに住んでいた人々が移転し、現在の里町中心部である「本郷」が誕生します。市域では「知立ノ本郷」（宝3丁目付近）の住民の多くが新しい街道沿い（池鯉鮒宿付近）に移り住んだという伝承が残るとともに、近隣の中世集落「永見」（西町本田付近）・「小林」（山町小林）の存在が近世には確認できなくなります。おそらく街道沿いに移ったのでしょう。街道新設は地域社会のありようを大きく変化させました。この変化は近世池鯉鮒宿誕生の前提となり、ひいては現在の知立がかたちづくられるきっかけともなったのです。知立のまちは信長に始まるとも言えそうですね。（市史編さん係 中川貴皓）



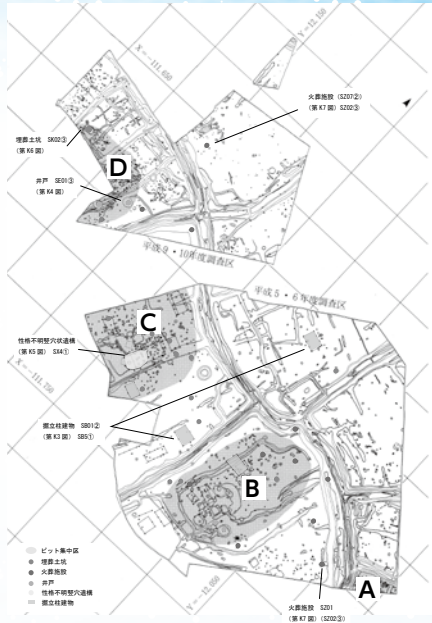
知立市

2022.3.1

腰前遺跡の資料の再整理をおこなって

市史通史編の執筆にあたり、資料整理が進んでいなかった腰前遺跡の再整理を行うことになりました。この遺跡は、上重原地区の土地改良事業により発掘調査が実施されましたが、当時は調査自体に追われ、詳細に整理ができる状況ではありませんでした。今回再整理を行った結果、様々な状況がみえてきたことから、その様相を紹介しようと思います。

腰前遺跡は、鎌倉から室町時代の中世集落遺跡として、以前から研究者に注目されてきた遺跡です。この遺跡の所在地が重原荘という中世の荘園の中心部近くに位置することから、その荘園に暮らす人々の集落であったと考えられています。左図でもみられるとおり、遺跡の中央に大きな溝が東西に走り、そこから南北に溝が数条伸びている状況がみられます。そしてその溝に囲まれた空間が八か所存在している状況がみとれます。この空間に当時の人々が生活していたと考えられてきました。



腰前遺跡遺構図

特に人が住んでいたと考えられる地域は、A～Dの四か所であったことがわかります。

ところが、この遺跡から出土した土器などの遺物をよく観察したところ、遺跡全体に同時期に生活して存在していたのではなく、時期によって居住する場所が変化していたことが明らかになってきました。さらに場所によっては居住する人の身分差により、住む場所が違っていても住めない状況想定することが出来るようになってきました。また建物が少ない場所は、畑地などであった可能性も考えられるようです。

さて、これまで述べてきたように、腰前遺跡は中世集落遺跡という印象が強いのですが、じつは縄文時代の石鏃も採集されています。当時このあたりは、狩猟が行われていた地域でもありました。上重原地区は旧石器のナイフ形石器や縄文時代草創期の有舌尖頭器が見つかった地域としてよく知られています。このほどこの遺跡から縄文時代早期の石鏃も一点みつけられました。人々はこの地で狩猟をずつと行っていたようです。

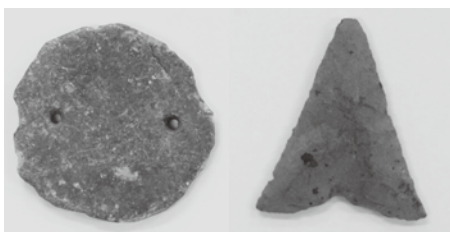
さらに古墳時代の有孔円盤という遺物もみつけられました。古墳時代になると、鏡を使用した祭祀を行うようになり、有孔円盤は鏡の模造品として人の額などにつけて使用したと考えられています。当遺跡では、古墳時代の遺構は発見されていませんが、遺物が少しみつかっており、当時この地で何かしらの儀式をおこなっていたのかもしれない。

石鏃

これからは研究者に留まらず、市民の皆さまに周知される遺跡になるように調査を進めていきたいと思っています。

有孔円盤

(考古部会 神谷真佐子)



資料調査の現場から

新編知立市史の編さん事業は、平成二十年（二〇〇八）に発足以来、十四年目を迎えました。活動当初から市域に関する古い資料・情報収集についてお願いしてまいりましたところ、皆様より多くの貴重な資料を提供いただきました。ここに記して御礼を申し上げます。

ご提供いただいた資料の調査は、それぞれの分野で異なりますが、その成果を後世に残せるよう、原本やデータを保存しています。例えば古文書の調査・整理作業を紹介しますと、くずし字を解読（ほんこく）し、①一点一点に番号を与え、その文書の作成年月日・作成者・内容を反映した資料名・宛所・形状・点数など、詳細を採録した目録を作成し、②古文書の保管に適した中性紙封筒に入れ、③中性紙箱へ収納します。さらに④デジタルカメラで撮影します。このように整理しておけば、展示や研究目的などで閲覧依頼を受けた際に、スムーズに対応することができます。

さて、昨年度も情報提供が数件あり、文化振興係と合同で資料調査を行いました。そのうちの一件に松島屋薬局さん（中町）の資料があります。家屋の建替えにあたり、土蔵や旧店舗などに残されていた資料を寄贈くださいました。松島屋さんは江戸時代には旅籠を営まれていたので、その頃に使用された人力車の部品などもありました。多くは薬局に関するものでした。書籍や古文書類約四〇〇点の他、多種多様な薬の看板が沢山あり、特に看板については、今年度の知立市歴史民俗資料館の企画展「レトロな

薬の看板」で展示されたことは記憶に新しいところです。古文書も一部紹介されました。松島屋五代目近藤松衛（一八二九～九九）が製造し、明治十七年（一八八四）に内務省の売薬許可を得た「神明眼治水薬」や「ふりだし風邪薬」の製造・管理記録である『売薬製造帳』。そこには売薬税検査員のチェックが入っている箇所があったり、明治十六年の『薬剤小売帳』には、名古屋鉄砲町営業人某氏製薬の「せきの粉薬」の請売り（委託販売）の記録があったりします。また、『薬品仕入帳』（同十七年）には、カミツレ・接骨花（ニワトコ）・橙皮・山梔子・桂枝・甘草といった漢方薬が記されています。このように実際に取引されていた薬の具体的な情報と、看板から感じられるお店の雰囲気などが相まって、営業当時の松島屋薬局さんの生き生きとした姿を垣間見ることが出来ます。個別の資料を、資料群全体の中で捉える視点の必要性に気づかれます。

古文書には具体的な事柄が書き留められているので、説得力があります。また、筆跡・使用されている紙・メモのような記述であっても書き手の人柄を知る手掛かりになります。虫食いの穴も貴重な情報です。別々に出てきた文書の虫食いの痕跡が一致することで、本来は一連のものであったと判断できる場合があります。物言わぬ古文書ですが、注意を払って観察すると、語りかけてくることが実に多く、とても興味深いです。しかしながら、原本でなければその情報は得られません。原本を後世にまでご覧いただけるように、今日も地道に資料の調査・整理・保存作業を進めています。

（市史編さん係 安藤幸子）

刊行予定

『新編知立市史2 通史編 近代・現代』

菊判オールカラー

令和四年三月刊行予定

二二〇〇〇円

主に明治以後の、激動の時代を経て、今日の知立がどのようにして現在の様子となったのか、丹念な資料調査を経て明らかにします。変わったもの、変わらないもの、どちらも大切な歴史の1ページです。ぜひご一読ください。

好評販売中

■新刊(令和三年七月刊行)

『新編知立市史1 通史編』

原始・古代・中世・近世』

菊判オールカラー

一一〇〇〇円



■既刊

『新編知立市史3 資料編 原始・古代・中世』

B5判 二冊箱入り(付図あり) 四五〇〇円

『新編知立市史4 資料編 近世』

B5判 (CD-ROM付き) 三二〇〇円

『新編知立市史5 池鯉鮒宿本陣御宿帳』

B5判 二六〇〇円

『新編知立市史6 資料編 近代・現代』

B5判(付図あり)

四一〇〇円

『新編知立市史7 資料編 民俗』

B5判 (DVD付き)

三七〇〇円

『新編知立市史8 資料編 自然』

B5判オールカラー

〔植物・動物目録〕付き 四七〇〇円

『新編知立市史 別巻 文化財編』

A4判オールカラー

二六〇〇円

『新編知立市史 別巻 八橋編』

B5判オールカラー

三五〇〇円

☆新編知立市史は、歴史民俗資料館・市役所市民課・観光交流センター・八橋史跡保存館で購入できます。詳しくは、市ホームページでご確認ください。

お礼

市史編さん活動におきまして、たくさんの方にご協力・ご教示を賜りました。心より御礼申し上げます。

お問い合わせ

知立市教育委員会文化課市史編さん係

〒四七二一〇〇五三 知立市南新地二丁目三一三

(歴史民俗資料館内)

TEL 〇五六六一八三一六七八九

FAX 〇五六六一八三一六六七五

E-mail sisi-hensan@city.chiryu.lg.jp

新編知立市史だより第12号 令和4年3月1日発行

発行 知立市教育委員会文化課市史編さん係